



育てます豊かな食とみどりの東京

公益財団法人 **東京都農林水産振興財団**

Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

公益財団法人 東京都農林水産振興財団について

設立の目的

当財団は、農林水産業の担い手となる後継者の確保育成や農林水産業の振興、森林保全整備、緑化推進事業等を行い、都市と調和する農林水産業の振興、うらおいと活力ある都民生活の向上、感性豊かな次世代の育成に寄与することを目的に設立された公益財団法人です。

事業と特徴

当財団は、農林水産業の現場に密着した振興事業を行う「事業部門」と、農林業から食品産業までを対象とする「試験研究部門」（農林総合研究センター）を併せ持った組織となっています。

この両部門を一体的に運営することで、高度な知見・有用な技術に裏打ちされた効果的な支援を行っています。当財団の特徴であるこの一体的運営により、今後も様々な支援を行ってまいります。

経営方針

- 1 都の農林水産業振興施策の一翼を担いつつ、公益性の高い事業を実施する。
- 2 常に地域経済に貢献できる試験研究・開発を行い、都民と地域社会の期待に応えていく。
- 3 公益財団法人としてコンプライアンスを徹底し、常に都民の信頼を得る。

財団シンボルマークの意味

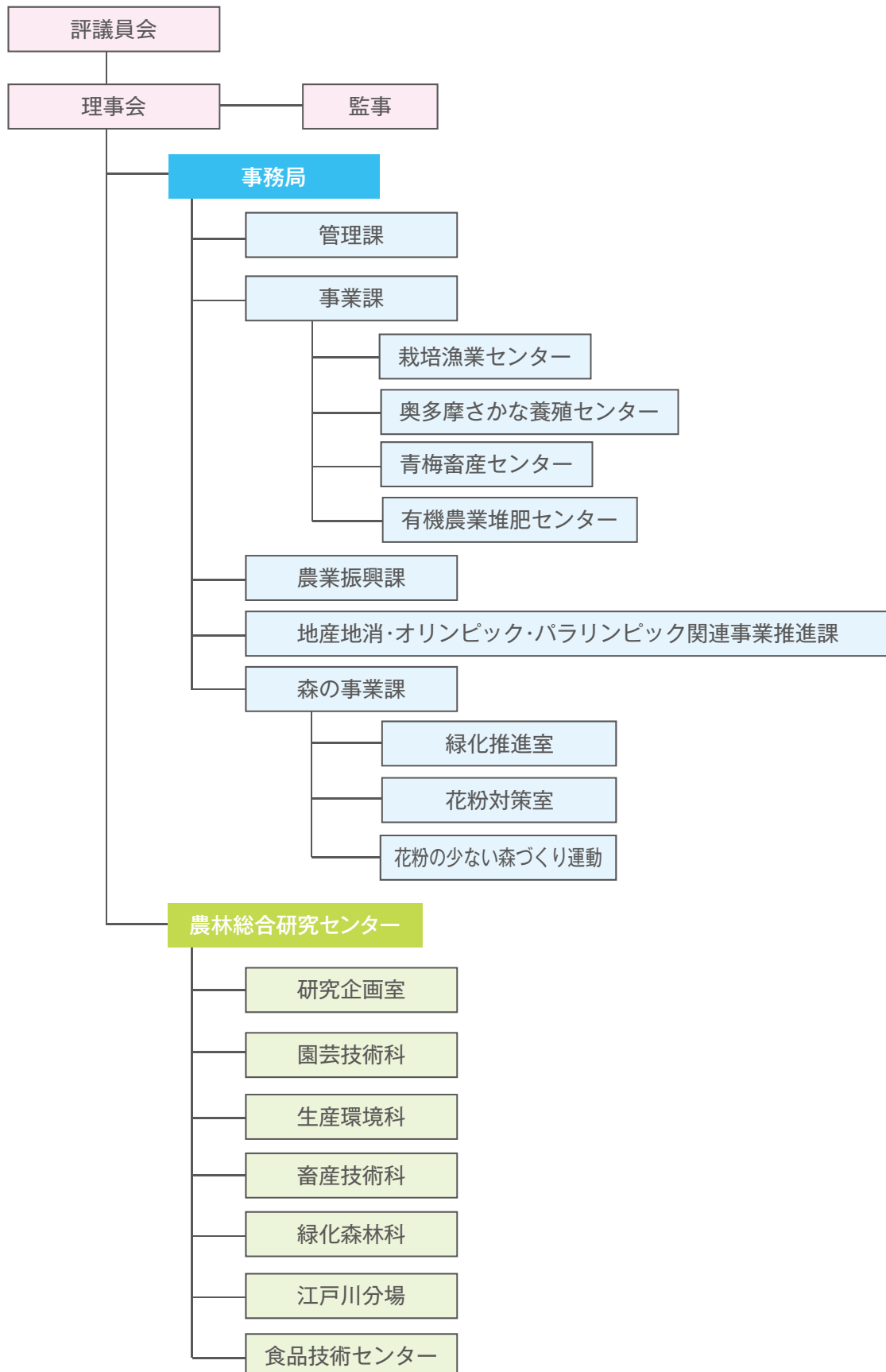


当財団のシンボルマークは、東京の農林水産業を振興し、都民の豊かな生活を推進する財団の特徴を表したものです。

4つの部分は、それぞれ財団を構成する農業・林業・水産業・食品の各分野を示し、青と緑の配色は大地と海洋を示しています。

そして、マークの全体は、東京の農林水産業と食を、都民の方々からのご理解とご支持を得ながら、ともに作り育てる財団の願い・誓いを表しています。

組織図



◎地域特性に応じて設置した支援拠点から広域展開

～急峻な奥多摩の森林地域から太平洋に広がる島しょ地域まで～

**東京都青梅合同庁舎内
森の事業課分室**

- 花粉対策室 P21~22
- 花粉の少ない森づくり運動 P18
- 多摩産材情報センター P18



**青梅庁舎
事業課**

- 青梅畜産センター …… P11~12
- 有機農業堆肥センター P13
- 農林総合研究センター
- 畜産技術科 …………… P26




**事業課
■奥多摩さかな養殖センター P9~10**



**事業課
■栽培漁業センター P7~8**



当財団は農林水産振興に係わる様々な事業を実施するため、西は奥多摩、東は江戸川、海をわたって大島まで東京の広い範囲にわたって支援拠点を設置しています。各拠点では、その地域特性に応じた各種事業を展開しています。



立川庁舎

- 農業振興課 …… P14~16
- チャレンジ農業支援センター P16
- 地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課 …… P17
- 森の事業課 …… P18~20
- 緑化推進室 …… P20
- 農林総合研究センター
 - 研究企画室 …… P23
 - 園芸技術科 …… P24
 - 生産環境科 …… P25
 - 緑化森林科 …… P27



農林総合研究センター
■食品技術センター P29



農林総合研究センター
■江戸川分場 P28

※野菜・果樹等の表示は、各地域の特産品を示したもので、生産量が最も多い農林水産物とは限りません。

組織概要

事務局(振興事業を実施)

事業課 〈青梅庁舎〉／〈奥多摩さかな養殖センター〉／〈栽培漁業センター〉

農林水産資源の拡大及び環境保全型農業を推進するため、以下の各センターにおいて、種畜・種苗等の生産配付業務を実施しています。また、トウキョウXの生産拡大や青梅庁舎再編整備等の課題にも取り組んでいます。

- ①栽培漁業センター(所在:大島町) 取扱品目:アワビ・フクトコブシ・サザエ
- ②奥多摩さかな養殖センター(所在:奥多摩町) 取扱品目:ニジマス、ヤマメ、奥多摩やまめ、イワナ
- ③青梅畜産センター(所在:青梅市) 取扱品目:トウキョウX、東京しゃも、東京うこっけい
- ④有機農業堆肥センター(所在:青梅市) 取扱品目:家畜ふんと剪定枝チップを利用した優良堆肥

農業振興課 〈立川庁舎〉

新規就農支援、農林水産業の担い手の確保・育成、東京農業の支え手としての援農ボランティアの養成、東京農林水産業の理解促進、野菜や肉用牛の価格安定、農家の経営課題解決を支援するための相談や専門家派遣等に取り組んでいます。

これらの事業のうち、農業への新規就業支援、農家の経営課題解決支援については、以下のセンターにおいて事業を実施しています。

- ①東京都青年農業者等育成センター
就農相談活動、新規就業者の調査・奨励、農業研修の実施 等
- ②チャレンジ農業支援センター
農業経営に関する課題解決のための相談・専門家派遣、講演会開催 等

地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課 〈立川庁舎〉

農林水産物の認証(国際・国内)取得支援、コンサルタント派遣、説明会開催、認証継続等の支援・助成、農林水産関係情報を発信するWebサイトの管理運営及び情報誌の作成等に取り組んでいます。また、東京都GAP推進事業の一部を受託しています。

森の事業課・緑化推進室 〈立川庁舎〉

花粉対策室・花粉の少ない森づくり運動 〈東京都青梅合同庁舎〉

森の整備を図るための分収林事業、都民協働の森づくり、都行造林の管理、とうきょう林業サポート隊、森林循環促進事業、都民の森林ふれあいを進める森林総合利用事業、緑の羽根で知られる緑の募金のほか、以下の各センターで事業を行っています。

- ①林業労働力確保支援センター
林業への新規就労や林業労働者の育成、林業事業体の雇用改善 等
- ②多摩産材情報センター
多摩産材に関する供給者、利用者の情報収集、情報提供、ニーズのマッチング

農林総合研究センター（試験研究事業を実施）

研究企画室 〈立川庁舎〉

農林総合研究センターの運営・管理を所管し、試験研究の総合企画・調整、研究評価の実施、研究の進行管理、共同研究の推進、外部資金の獲得、国や他機関との調整、研究成果の公表などの業務を行っています。

園芸技術科 〈立川庁舎〉

野菜、果樹、花き、バイオテクノロジー等の園芸技術分野を所管し、東京特産品種の育成や、高品質・高付加価値農作物の開発・育成、園芸作物の生産性向上技術の開発などに取り組んでいます。

生産環境科 〈立川庁舎〉

農薬、病害虫、土壌・肥料等の生産環境分野を所管し、農産物の安全性確保技術の開発や、病害虫総合管理技術（IPM）の開発、環境負荷の少ない土壌総合管理技術の開発などに取り組んでいます。

畜産技術科 〈青梅庁舎〉

牛、豚、鶏等の畜産技術分野を所管し、東京ブランド畜産物の開発や、畜産の生産性向上技術の開発、有機質資源の管理と利用技術の開発などに取り組んでいます。

緑化森林科 〈立川庁舎〉

緑化及び森林分野を所管し、緑化植物を活用した都市環境改善技術の開発や、豊かな森づくり技術の開発などに取り組んでいます。

江戸川分場

東京の東部地域における園芸技術分野を所管し、高度集約型園芸技術の開発や、特産園芸作物における品種の選定・導入などに取り組んでいます。

食品技術センター 〈東京都産業労働局秋葉原庁舎内〉

食品製造や製品開発等の食品技術分野を所管し、食の安全性確保技術と機能性食品の開発や、地域の資源を利用した食品開発などに取り組んでいます。また、食品事業者に、依頼試験、技術相談、開放試験室の利用などの技術支援を行っています。

事業課

アワビ・フクトコブシ・サザエ・ニジマス・ヤマメ・奥多摩やまめ・イワナ・トウキョウX・東京しゃも・東京うこっけい。私たちは、これら東京の農林水産資源（種畜、種苗など）の安定供給を通じて、地域の生産現場と暮らし、さらには東京の魅力向上に貢献しています。

栽培漁業センター事業



島しょの重要な地域資源であるアワビ、フクトコブシ、サザエの種苗（稚貝）を生産し、大島をはじめとする島しょ地域に供給しています。

栽培漁業センター ☎04992(2)3461



事業イメージ



ふ化直後の幼生は浮遊生活をするため屋内で飼育されます。ふ化後2~3日で珪藻類を付着させた培養器に入った屋外水槽へ移す(採苗)と、幼生は培養器に付着し、稚貝に変態していきます。



アワビ稚貝



サザエ稚貝

栽培センターで育成した種苗は、アワビ類が平均殻長20mm、サザエが平均殻高15mmに達すると漁協や町村に配付されます。緑色の貝殻は放流種苗の特徴で漁獲された貝の由来の判別に用いることができます。

栽培漁業センター種苗生産事業における各種作業



アワビ選別作業

育成した種苗の選別には各種サイズの目合いのふるいを 사용합니다。水中で作業することで貝を傷めず、良好な状態で選別することができます。



巡流水槽での作業(培養器の取り上げ)

種苗を取り扱う際は、貝を傷めないために貝の付着した器材(培養器)ごと水槽から取り上げます。



稚貝を培養する板(培養板)からの剥離作業

培養器ごとに取り上げた種苗を剥離し、選別や出荷などの作業を行います。



種苗配付

配付サイズに達した種苗は漁協や町村に配付します。種苗の生育に適した海域に漁業者によって放流されます。

水揚げされたサザエ・フクトコブシ



サザエ

大島から三宅島の海域に50~100万個の稚貝を放流し、海で大きく成長したものを漁業者が漁獲しています。



フクトコブシ

放流し、漁業者によって漁獲されたフクトコブシの貝殻には緑色の部分が見られ、放流貝由来であることが確認できます。

奥多摩さかな養殖センター事業

奥多摩さかな養殖センター
☎0428(85)2028

奥多摩周辺の地域資源である“ニジマス・ヤマメ・奥多摩やまめ・イワナ”の種苗(卵や稚魚)生産と試験研究を行っています。

入川飼育池では稚魚の飼育と配付、海沢飼育池では親魚の養成と採卵という役割分担をしています。当センターで生産・配付された種苗は、河川放流や釣り堀、さらには民宿や飲食店等で皆様の元に届けられます。



奥多摩やまめ

奥多摩やまめの刺身



入川飼育池

奥多摩町小丹波720



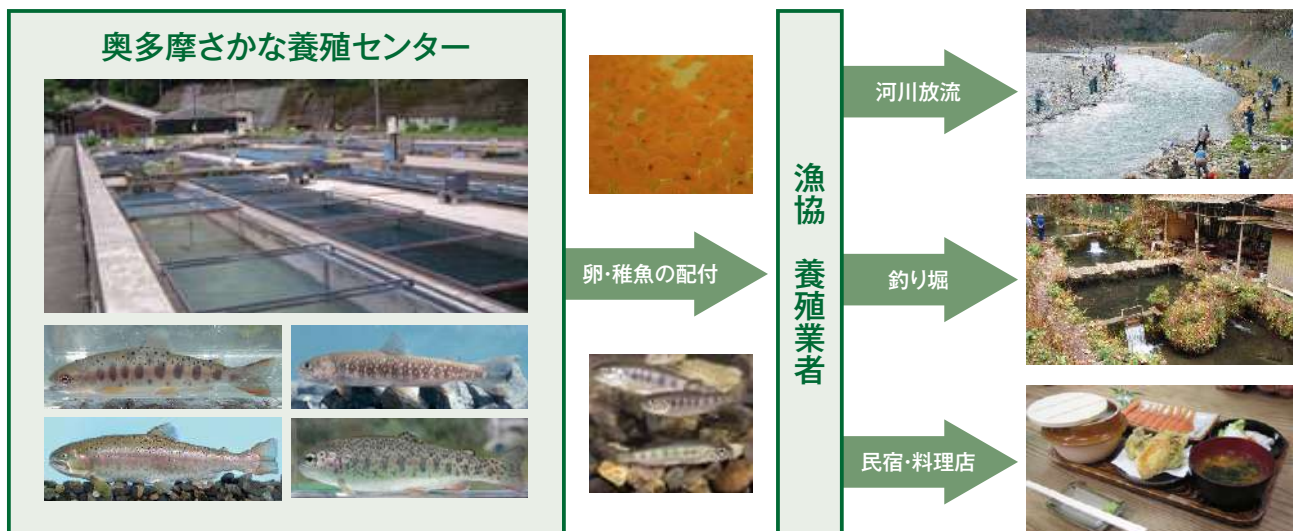
海沢飼育池

奥多摩町海沢53



事業のイメージ

河川放流や釣り堀で利用されます。また、民宿や料理店では塩焼き、刺し身などで食べることができます。



種苗生産事業

ニジマス、ヤマメ、奥多摩やまめ、イワナの種苗を生産し、河川放流や養殖用として都内の漁業協同組合や養殖業者に配付しています。



ヤマメの発眼卵



ヤマメの稚魚



ヤマメの採卵



養殖業者への稚魚配付

試験・研究事業

◆ 冷水魚優良種苗育成試験

- ・天然魚のような美しい姿をしたヤマメを生産するための研究を行っています。
- ・奥多摩やまめ*1を多摩地域の特産物として定着させるため、加工品の開発や普及に取り組んでいます。



手前:普通のヤマメ 奥:奥多摩やまめ

◆ 魚病診断及び疾病別対策研究

- ・センター内で発生する魚病の診断や治療のほか、原因究明と対策法の開発に取り組んでいます。

◆ IHN抗病系品種の作出研究

- ・養魚経営に大きな被害を及ぼすIHN*2という病気に強い種苗を作る研究を行っています。

※1ヤマメの全雌三倍体で、大きく成長するので塩焼きだけでなく、燻製に加工され土産用にも販売されています。また、より大きなものは冷凍フィレや刺身で旅館・民宿、飲食店で利用されています。

※2《IHN》伝染性造血器壊死症、おもにサケの仲間がかかる病気で、稚魚では大量に死亡し、大型魚でも発病します。



奥多摩やまめ加工品 上:燻製 下:冷凍フィレ

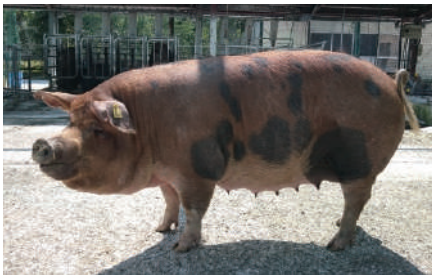
仕事の現場

奥多摩さかな養殖センターで生産された種苗(卵や稚魚)は、川に放流されたり養魚場で育てられ、最終的に地域の住民や観光客に利用されます。私たちは、こうした消費者に少しでも喜んでいただき、地域の観光・産業の活性化に繋がることを目的に、品質のよい種苗作りや、新たな加工品開発などに取り組んでいます。



イワナの選別作業

青梅畜産センターが生産・配付するブランド豚・鶏



トウキョウX(メス)



東京しゃも(左:オス 右:メス)

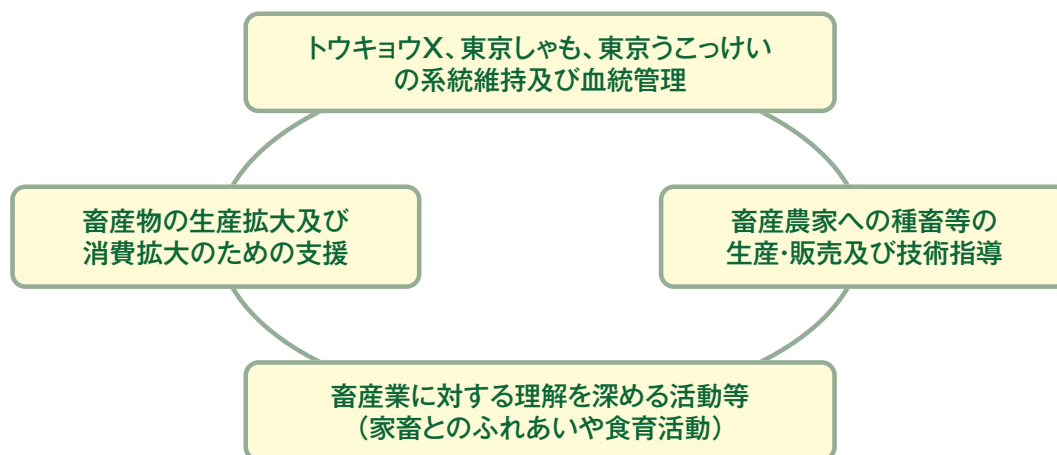


東京うこっけい(左:オス 右:メス)

当センターが生産配付する「トウキョウX」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」は、それぞれ高い魅力を持つ東京ならではの畜産資源です。なかでも、「トウキョウX」の知名度は非常に高く、豚肉としては、都内有名百貨店などで「TOKYO X」のブランド名で好評を得ているところです。

青梅畜産センターは、これらの東京ブランド畜産物の種畜の系統維持及び血統管理、畜産農家等への種畜の配付及び技術指導を担っています。東京に来たら東京ブランド畜産物を味わいたい…そんな声に応えるため、私たちは、生産者とともに日々品質向上に取り組んでいます。

主な業務



青梅庁舎について

青梅庁舎の前身となる旧東京都畜産試験場は大正9年に設立されました。東京都が開発した「トウキョウX」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」の系統を維持し、種畜を生産者に配付する青梅畜産センターは、平成17年に誕生しました。

畜産振興のための研究や技術開発業務は、同じく平成17年に設置された農林総合研究センター畜産技術科へ引き継がれました。

両部門は密接に連携して、種畜の効果的な活用や付加価値の高い畜産物を供給するための技術開発、都民の畜産への理解を促進するための事業を実施しています。



畜産3大ブランド豆知識

「トウキョウX」

肉質に優れた特徴を持つ3品種の豚(右図)を掛け合わせ、それぞれの特徴を併せ持つよう改良された豚が「トウキョウX」です。豚肉としてのブランド名は「TOKYO X」です。毛色は茶、黒、茶と黒の斑など3品種の影響を引き継ぎ様々です。肉は臭みがなく風味、味わいに優れ、特に豚肉の味を左右する脂肪は良質なものとなっています。



トウキョウX



枝肉を第5,6胸椎間でカットしたときの断面です。この断面を見て霜降りの度合いを確認します。



北京黒豚
・脂肪が美味しい



デュロック
・肉が霜降りになる



パークシャー
・筋繊維が細かい

「東京しゃも」

「東京しゃも」の交配方法は下図のような交配様式をとっています。引き締まった軍鶏肉の特徴を最大限にいかしたその肉質は、ブロイラーに比べたんぱく質に富み、脂肪が少ないことが特徴です。また調理による肉汁の損失が少なく、肉の旨み、コクが逃げないこともその美味しさの秘密です。

軍鶏(純系)♀ ———— ロードアイランドレッド♂
二元交雑種♀ ———— 軍鶏(純系)♂



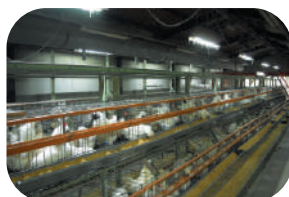
東京しゃも
初生ひな

「東京うこっけい」

うこっけいは年間50~80個程度しか卵を産みませんが、「東京うこっけい」は、年間190個程度まで産むように改良した鶏です。また、一般の採卵鶏に比べて体重が小さく、卵自体もニワトリが平均60gに対して、うこっけいは平均40g程度です。



生産・配付事業の様子



青梅畜産センターで生産、育成

生産者へ配付

東京の地域特性をいかした畜産業を振興し、消費者に安全で付加価値の高い畜産物を提供するため、東京都や生産者等と連携して高品質な豚や鶏の系統を維持し、種畜等の生産・配付を行っています。

有機農業堆肥センター事業

堆肥はこのようにして作られています



家畜ふんと剪定枝チップを機械で混ぜ合わせて約20日間、第一次発酵します。



横型ロータリー式の機械で約20日間かけて第二次発酵します。



ふるいを掛けて不純物を取り除き、さらに追熟発酵します。



空気を入れて発酵させます。



完成

有機農業堆肥センター(青梅庁舎)
☎0428(33)3997



有機農業堆肥センターは、敷地内の青梅畜産センター等から排出される家畜の糞と剪定枝チップを使って堆肥(「とうきょう元気堆肥」)を生産し、野菜生産農家に供給して、東京の有機農業を推進しています。

ご利用されている方からは、この堆肥を使って野菜づくりをすると、品質や味が良くなるとの意見が寄せられています。

「とうきょう元気堆肥」とは?

- 1.じっくり約2~3ヶ月かけて発酵した完熟堆肥です
- 2.悪臭が少ない堆肥です
- 3.品質が安定し、安心してお使い頂けます

~美味しい野菜が沢山とれました~



『とうきょう元気堆肥』を使用すると土壌が改良されて良品質の作物が見事に収穫できました。



就農から農業経営の拡大まで、生産者を支える各種事業を実施しています。また、東京農業の果たす役割について理解を深めてもらうために、各種イベントや食育活動等を実施しています。

これから農業をはじめの方へ

農家の後継者でまだ就農されていない方々や、後継者以外で新たに就農を考えている方々への相談窓口を開設しています。また、指導農業士等を活用した農業研修や、女性を対象とした就農PRなどを実施しています。

そして、公立研究機関や農業担い手育成研修施設などで研修を受ける際の費用の助成も実施しています。



農業技術研修



女性向け農業ツアー



女性新規就農者によるマルシェ

農業を開始された方や農業後継者への支援

毎年新たに農林水産業に就業した方へ奨励賞を授与し、経営への意欲高揚を図っています。

また、新たに就農された方々や農業を開始されて間もない後継者の皆さんが生産技術や経営方法の基礎を習得する「フレッシュ&Uターン農業後継者セミナー」を支援し、企業的な経営や地域のリーダーを担う農業者を育成する「意欲的農業者支援セミナー」を東京都と共催しています。

そして、農林水産業の担い手を中心となっている団体が地域の農業に関する課題を自主的に解決する取組や講習会の開催における活動費などを助成するとともに、担い手の団体が実施した取組の成果を発表する「東京都農林水産業技術交換大会」を毎年開催しています。



意欲的農業者支援セミナー



東京都農林水産業技術交換大会

農業を守る 農業経営を支える

都内で生産されたキャベツや島しょ地域特産のアシタバなど、市場出荷作物の価格安定を図るための「野菜価格安定対策事業」と、肉用子牛の生産や肥育経営を支援するための「畜産振興事業」を実施しています。

また、東京農業の支え手の育成・活動支援のため広域型の援農ボランティアを育成する「東京農業の支え手育成支援事業」を実施しています。



広域援農ボランティアの派遣（ニンジン収穫）



島しょ地域特産のアシタバ



市場出荷された東京都産のキャベツ



多摩地域における子牛放牧

街の緑を育てる

東京を緑豊かな都市とするため、市街化区域内などの農地で各種樹木の苗木を生産しています。

そして、これらの苗木を、東京都や区市町村が行う緑化のために供給する他、都民への配布用にも供給しています。



都内供給を待つオオムラサキツツジの苗木

都民とのふれあい

都民の皆さんに東京都内の農林水産業への理解を深めてもらうため、様々なイベントにおいて東京の農林水産業の紹介や特産物の販売活動を支援しているほか、東京産農畜産物を活用した体験教室などを実施しています。

また、地域援農ボランティアの養成事業（東京の青空塾）により、区市町村と協力して、農業に関心を持つ方々を対象に農作業の実習や視察等を実施し、援農ボランティアの認定を行っています。



農業・食育体験教室



東京産農畜産物を使った料理教室



農業ボランティア認定証授与式



食育クイズの実施

チャレンジ農業支援センター

☎042(524)3191

～様々なジャンルの専門家があなたの農業経営をサポートします～

「チャレンジ農業支援センター」は、収益性の高い農業経営を実現したいと考える農業者の皆様、創意工夫とチャレンジをサポートします。農業経営の拡大や新たな分野に進出する際に、当センターで派遣した専門家の知恵を活かしながらチャレンジしていただくのが、本事業の目的です。



農産物直売グループのブランディング

【支援の内容】

- 相談
- 専門家の派遣
一つの案件に関して5回までの派遣が可能で費用は無料です。
女性農業者に対しては、派遣回数を10回に増やして支援を強化します。
- 講演会の開催



パッケージのシールデザイン

地産地消・オリンピック・パラリンピック 関連事業推進課

☎042(528)0510

東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において都内産の農林水産物をPRするために、東京を訪れる観光客に向けた情報発信や、大会で使用するために必要となる食材、木材等の認証取得の支援を行います。

農林水産ウェブサイト



東京の農林水産総合サイト「とうきょうの恵み TOKYO GROWN」の運営管理を行っています。本ウェブサイトを通じて、都民や国内外からの旅行者に向けて、東京の農林水産業や新鮮で安全・安心な都内産農林水産物の魅力を広く発信することにより、東京の農林水産業への理解促進と消費拡大、さらには生産現場と絡めた観光振興を図ります。



イメージ画面
(トップページ)

イメージ画面
(「TOKYO GROWN」)

無料情報誌の発行

都内産農産物の消費拡大に向けた情報発信のため、都内5地区版(23区、北多摩、南多摩、西多摩、島しょ)や、5カ国語(日本語、英語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、韓国語)の無料情報誌を作成しています。



認証取得支援



本事業を活用し、水産認証を取得した棒受け網漁業*

※夜間、漁船に明かりを灯して海面を照らし、集まった魚を網ですくい上げる漁法。漁獲物:カンパチ等



本事業を活用したGAP研修会の様子

東京2020大会での都内産農林水産物の提供に向け、国際・国内民間認証の取得を目指す対象者の方々へのコンサルタントの派遣や認証取得に要する費用を補助しています。

また、都市農業の特徴を活かして都が策定した「東京都GAP」については、その申請が基準に適合しているかの調査や、認証取得者の技術維持・向上の研修会を開催します。

東京でもっと木を感じる暮らしを実現するため、東京の総面積の4割以上を占める森林をフィールドに、森を育て、活かす取組を進めています。

森を整備する

分収林事業

スギ・ヒノキの人工林や伐採跡地等を対象に、森林所有者と分収林契約を結び、財団が森林所有者に代わって森林整備を行っています。

都民協働の森づくり

都民、自治体、企業、団体などから森林を育成するための費用を負担していただき、森林所有者と協定を結び、森林整備を行っています。

都行造林管理事業

東京都から多摩地域の約800ヘクタールを受託し、東京都と土地所有者との造林契約である都行造林の保育施業や歩道整備を行うなどの管理をしています。



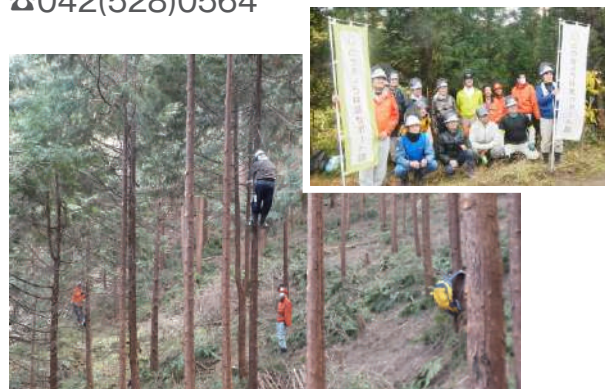
都行造林管理(奥多摩町)

とうきょう林業サポート隊

東京の森林を整備するボランティアを募集し、サポート隊のメンバーとして森林循環促進事業の伐採跡地等において、主に道づくり、植栽、下刈、枝打ち、間伐等の活動を行います。

毎週2回(水・土曜日)、定員12名で、雨天の場合でも屋内での作業を行っています。

☎042(528)0564



とうきょう林業サポート隊(青梅市)

多摩産材情報センター

「民間や公共施設の建築資材として、土木用の資材として、家具や木工品として、多摩産材を使いたい」といった多摩産材の利用者からの相談に応え、利用者と供給者のマッチングを行っています。また、多摩産材に関する情報を発信して、その普及・PRを図っています。

東京都青梅合同庁舎1階

☎0428(20)1181



多摩産材情報センター



多摩産材利用拡大フェア2017

にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業

多摩産材のPRや民間利用のより一層の拡大を図るため、駅や商業施設など、人が多く集まる施設に多摩産材を使用する場合、その経費を補助します。



nonowa武蔵小金井ムサコガーデン (小金井市)



京王あそびの森HUGHUG (日野市)

森で働く人を支援する

林業労働力の確保の促進に関する法律に基づき、林業労働力確保支援センターとして指定を受けて、林業就労者や林業事業体を支援しています。

☎042(528)0643

新規就労者への支援

林業の就業を希望する方を対象とした講習や就労1~5年目の方を対象とした技術向上を図るための研修を行っています。



林業就業支援講習

技術者の養成

既に就労している林業労働者に対して、施業技術向上のための研修や安全衛生講習の受講費等の助成を行っています。



森の技術者育成・作業道作設講習

林業事業体の強化

林業事業体が認定事業主になるための支援や認定後の達成状況に関しての指導助言のほか、林業機械のレンタル助成や森林認証に係わる研修を実施しています。



林業労働環境整備・森林認証に係わる研修

都民の森林ふれあいを応援する

森林は、木材生産の場であるばかりでなく、水を蓄え、新鮮な酸素を供給するなど、暮らしや環境を支える重要な役割を持っています。また、森林はレクリエーションの場でもあります。都民が森林に親しみ、都市と山村の交流を深めることが、森づくりを進める上で重要であると考え、「森林浴登山」や「森林ふれあい教室」などを開催し、都民の皆様を森へお誘いしています。

森林浴登山

毎年5～6回、都民が森林にふれあう機会を提供するため、森林浴登山を開催しています。



森林浴登山(御岳山)

森林ふれあい教室

野鳥や昆虫の観察・リースづくり等、森林を活用したイベントを開催しています。



昆虫教室(日の出町)

緑化推進室 (東京緑化推進委員会)

☎042(528)0644

緑化の推進(緑の募金)



昭和25年にスタートした「緑の羽根募金」を引継いだ「緑の募金」活動を、関係団体と連携し、東京都内において行い、募金を活用して森林整備や都市緑化を推進しています。

また、緑の少年団の活動を支援し、未来を担う子ども達の緑に対する理解を深めます。



街頭募金を行うガールスカウトの皆さん



植林体験活動(青梅市)

森林整備

緑の募金により植林、下刈、間伐を進め、森林の育成に努めています。

都市緑化

学校、公園や公共施設における植樹、花壇づくり、苗木・花苗の配布などに助成を行っています。



花壇の整備(日野市)

森の事業課分室〈花粉対策室・花粉の少ない森づくり運動〉

木材価格の長期低迷等により、スギ・ヒノキ林の伐採更新が進まず、多くの花粉をつけるようになっていきます。伐採、利用、植栽、保育という森林循環の促進により、花粉飛散量を削減し、同時に多摩産材の安定供給を図ります。

花粉対策室 ☎0428(20)8134

花粉の少ない森へ

主伐事業

多摩の森林のスギ・ヒノキは40年生以上が9割を占め、伐採・利用の時期を迎えています。しかし木材価格の低迷、労務費の高騰から伐採・更新がほとんど行われていません。その結果、花粉をつける林齢のスギ・ヒノキが増え、多くの花粉を飛散させています。

主伐事業は、スギ・ヒノキ林を伐採し、伐採跡地に花粉の少ないスギなどを植栽することで、花粉の少ない森づくりを進めるとともに、多摩産材の安定供給、東京の林業の活性化を図ります。



花粉をつけているスギの枝



スギの伐採



伐採木の集材



トラックへの材の積み込み



じごしら
地拵え後の施業地



花粉の少ないスギに
植え替えられた山林

木質バイオマス事業

主伐事業で伐採した材のうち、建築用材、合板用材以外のものについて、奥多摩町にある工場でチップに加工し、多摩川上流水再生センター（昭島市）の下水汚泥を焼却するための補助燃料として供給するほか、もえぎの湯（奥多摩町）などへ供給しています。



チップ工場（奥多摩町）



焼却処理施設へのチップの搬入（昭島市）

花粉の少ない森づくり運動

☎0428(20)8153

都民・企業等と進める花粉の少ない森づくり

「花粉の少ない森づくり」には、都民、企業、団体などの皆様の理解と協力が不可欠です。このため、「花粉の少ない森づくり募金」、「企業の森」及び「森づくり支援倶楽部」など『花粉の少ない森づくり運動』を展開しています。



東京マラソンEXPO2018での募金活動



企業の森（下刈作業）



「東京マラソンの森（八王子）」での植樹体験イベント

花粉の少ない森づくり募金

花粉の発生源となっている樹齢30年以上のスギやヒノキ林の伐採、花粉の少ないスギ等への植え替えなどに充てられます。

企業の森

賛同・協力していただける企業、団体の方々の支援により森づくりを行っています。

支援していただいた森に名前をつけたり、職員研修等として植樹・下刈体験等ができます。

森づくり支援倶楽部

花粉の少ない森づくりを継続的に支援するための会員倶楽部の運営を行っています。

会報誌を送付するとともに、年に一度会員等の皆様を招待し、イベントを開催しています。

農林総合研究センター

農林総合研究センター（農総研）は、明治33年創設の東京府立農事試験場、大正9年創設の東京府立種畜場、昭和32年創設の東京都林務課分室の伝統を引継ぎ、平成17年に当時の農業・畜産・林業の各試験場を統合し設立されました。平成18年には、平成2年に創設された東京都立食品技術センターの運営を担うこととなり、農林水産業から食品産業まで幅広い分野を担当する公的試験研究機関として、急速に変貌する東京の農林水産業と食品産業の振興のため、行政・普及機関等と密接に連携しつつ、多様なニーズに対応した研究開発に取り組んでいます。

研究企画室 ☎042(528)5216

農総研の3つのミッションを遂行するための企画・調整を行っています。

- 生産・流通・消費の現場を踏まえた研究開発により、東京の農林水産業と食品産業の振興に貢献
- 都民と東京を訪れる広範な人々のニーズを踏まえた研究開発により、健全で豊かな都民生活の発展に貢献
- 東京の農林水産業と食品産業に新たな可能性を切り拓く研究開発に果敢に挑戦

研究のレベルアップ

内部検証に加え、各分野の専門家による外部評価を踏まえた研究計画の策定や研究成果の発信などにより、都民や事業者役に役立つ研究を推進しています。



専門家による外部評価委員会

産学公による分野横断的研究の推進

多様な産業や大学などの研究・教育機関が集積する東京の強みを活かし、産学公・農商工連携による分野横断的で、効果的かつ効率的な研究開発を目指します。

農工融合による東京型統合環境制御生産システムの開発



研究成果の公表

生産者や事業者など都民に向けて研究成果を積極的に公表しています。



アグリビジネス創出フェアへの出展



研究成果発表会

農総研の技術を活かした研修と食育

農業後継者に向けた研修や、体験イベントを通じた食育など普及啓発事業を行っています。



農業現場を視察する農業技術研修生



幼稚園児のサツマイモ栽培体験

東京の主力品目である野菜・果樹・花きについて、東京オリジナル品種の育成や生産性・品質向上に向けた新技術の開発などにより、限られた農地で高収益を上げることのできる経営モデルの確立に取り組んでいます。

東京オリジナル品種の育成



キウイフルーツ「東京ゴールド」



香りシクラメン「はる香ミディ」



ワケネギ
「東京小町」



都市の高温・乾燥に強い
ブルーベリーの育成



甘みの強い摘み取り用
露地イチゴ「東京おひさまベリー」

優れた特徴を持つ品種間の交配や、バイオテクノロジー等の手法により、東京オリジナル品種を育成し、その利用技術を開発しています。

東京オリジナル品種は、生産者に高収益をもたらすとともに、東京農業の存在感をアピールする格好の素材となります。

生産性・品質向上に向けた技術の開発

野菜では、多品目生産に対応できる養液栽培システムや、温湿度・CO₂などを含めた統合環境制御生産システムなどを開発するとともに、直売型経営に向けた品種の選定や栽培技術を確立します。

果樹では、省力・早期成園化・低コスト技術などによる、高収益型栽培技術を開発します。

花きでは、高品質化、省エネ等の施設園芸技術の開発や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据え、夏花の利用拡大による都市緑化技術の開発を進めています。



ナシの根圏制御栽培



高収量で多品目生産に対応した
養液栽培システムの開発



暑さに強い夏花の選定



直売に向く花き品種の比較試験

農作物の安全性と安定生産を確保するため、病害虫や生育障害の原因を解明し、病害虫防除技術・農薬残留低減技術・土壌の適正管理技術を開発するとともに、養液栽培の肥培管理技術やICTを活用した環境制御技術の開発に取り組んでいます。

病害虫防除技術の開発

都内で発生する新発生・異常発生病害虫の原因を究明し、的確な防除対策を構築すると同時に、農薬に対する病害虫の抵抗性などを調査し、化学農薬のみに依存しない総合的な病害虫管理技術の確立を目指しています。



ワサビ病害虫発生調査(奥多摩町)



ワサビに発生した疫病の病徴と病原菌



トマトかいよう病耐病性台木の検証

土壌の適正管理技術の開発

都内農地の保全や農産物の安定生産を支えるため、土壌特性の把握と環境に配慮した土壌及び肥培管理技術の開発、また生育障害の原因究明と低減・回避技術の開発を進めています。



試坑による土壌の特性調査

農薬の残留調査と分析技術の開発

農作物の安全・安心の確保と農薬の適正利用を進めるため、農産物や農地周辺環境に残留する農薬を分析・評価しています。



残留農薬の分析

環境制御技術の開発

ICTを活用して、ハウス内統合環境制御など、農作物に最適な生育環境を作出する低コスト・高機能化技術を開発しています。



統合環境制御温室での生産状況と操作端末

高品質で安全な東京ブランド畜産物の開発・維持改良を進めるとともに、畜産物の生産性向上を目指した技術開発や、環境問題など東京特有の課題の解決による、収益性の高い畜産経営の確立に取り組んでいます。

東京ブランド畜産物の開発

「トウキョウX」の高品質な肉質の維持向上や、「東京うこっけい」肉の機能性解明などの研究により、東京の畜産物のさらなるブランド力強化を図ります。



トウキョウX



東京うこっけい



東京うこっけい肉



東京牛乳

生産性向上に向けた先進技術の開発

優秀な遺伝資源の確保と効率的な繁殖のため、豚の凍結精液利用技術や体外受精卵の移植技術を開発するとともに、夏季の暑熱対策技術など生産性向上に向けた技術開発を進めています。また、畜産物のより高い安全性を確保するため、薬剤のみに依存しない家畜疾病の防除技術を開発しています。

豚体外受精卵の生産・移植技術の開発



豚の体外受精卵



体外受精卵の非外科的移植

暑熱対策による乳量・乳質の安定化



牛体の散水



牛乳成分の測定による効果判定

健全な子豚の育成



下痢症で衰弱した子豚



健全な子豚

都市と共存できる畜産環境対策

家畜ふんの堆肥化など有機質資源の有効活用のための技術開発に取り組み、都市環境と調和した畜産経営の確立を目指します。堆肥化装置から発生する悪臭の効果的かつ効率的な処理技術を開発し、脱臭槽の適正な管理方法を提案します。

脱臭槽の処理能力強化技術の開発



脱臭槽(手前)と堆肥化装置(奥)

東京を安全で緑あふれる都市にするため、様々な都市空間における緑化技術の開発や緑化場면을彩る樹種の選定に取り組んでいます。また、東京の森林産業を育成し、森林をより価値あるものとして再生・保全するため、将来を見据えた森林づくりに向けた技術開発を進めています。



都市緑化技術の開発

街路やビルの屋上・壁面、海浜や河川敷、イベント会場など、様々な緑化場面に応じた新樹種の選定と緑化技術の開発を進めています。

また、災害に強い都市づくりのため、火災の延焼抑制などに着目した街路樹の特性を明らかにし、防災に役立つ緑化技術を開発しています。



都心にクールスポットを提供する
移動式コンテナ緑化技術



街中の狭い場所にも適した
樹木による緑化植栽



都市緑化樹木(ヒメイチゴノキ)

森林の再生・保全技術の開発

多摩地域の森林環境に適した花粉の少ない針葉樹林や広葉樹林に関する森林整備技術を開発しています。

また、森林被害をもたらすシカなど野生動物の被害実態の解明や低コストの森林施業を目指した技術開発などを進めています。



野生動物による被害実態の解明



コンテナ苗による低コスト生産技術



無花粉スギ調査林(日の出試験地)



奥多摩町の広葉樹林

農林総合研究センターの東京東部地域における拠点として、コマツナや鉢花、花壇苗等、歴史と伝統のある地域特産野菜・花き類を中心に、安定生産や新製品開発などに向けた技術開発に取り組んでいます。

東京伝統野菜の商品力の強化

東京東部地域の主力野菜であるコマツナの商品力強化を目指して、サラダや加工利用などを含む多角的な視点から品種の特性を解明しています。

また、ごせき晩生コマツナ、亀戸ダイコン等の江戸東京野菜について、優良系統の維持や栽培技術の確立を進めています。



コマツナ品種比較検討会
普及指導員や研究員などで評価



**コマツナのアミノ酸組成の
分析・評価**

うま味・甘味・苦味等との関連の解明



コマツナ生産管理方法の改善
作業性の評価・検討



亀戸ダイコン

安定生産のための技術開発

花きの新製品開発

新品種を利用した3月咲きチューリップの切り花生産をはじめとする新たな品目の栽培管理技術の開発など、付加価値の高い新製品の開発を進めています。また、伝統行事と結びついた“朝顔市”のアサガオや“七草かご”などについて、新たな価値を付与した製品開発にも取り組んでいます。開発した技術は、都内全域のジュアルフラワー生産現場などにも展開していきます。



3月咲きチューリップの安定生産技術の開発



切り花パンジーの生産・利用技術の開発

都内食品産業の振興ならびに都民の食の安全と食生活の充実を図るため、安全性や機能性などに着目した魅力的な製品の開発や、地域資源を活用した加工食品の開発に関する研究に取り組んでいます。また、都内食品企業が抱える技術的課題の解決を図るため、幅広い技術支援事業を実施しています。

伝統と新たな魅力を備えた製品の開発

歴史と伝統に培われた東京の食品製造技術を踏まえつつ、健康機能性の付与、安全性上の確保・向上、地域資源の活用、都民の食生活の変化に対応し、国際都市東京にふさわしい魅力と競争力を備えた食品とその製造技術の開発を目指しています。



納豆・納豆菌に関する研究開発



ソデイカ
(小笠原近海産、体長1m)



ソデイカのソーセージ
茶色:イカ肉のみ
黒色:イカ墨入り



乳酸菌入りべったら漬



企業と共同開発した納豆

食品企業への技術支援と6次産業化の推進

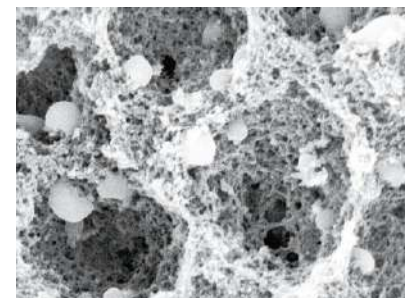
食品企業の抱える技術的課題の解決に向け、技術相談をはじめ、企業からの依頼試験や受託事業のほか、企業自らが製品の品質評価や開発を行える開放試験室の提供、各種検査技術習得のための技術者研修会の開催、食品技術アドバイザーの派遣など、幅広い支援事業を実施しています。また、農林漁業者・団体が取り組む都内産農林水産物の加工品開発による6次産業化も支援しています。



機器が充実した新しい開放試験室
(平成29年リニューアル)



食品企業の技術者を対象とする
研修会の開催



電子顕微鏡による
食品の構造観察(受託事業)

明治33年

・豊多摩郡中野町に東京府立農事試験場設立（現中野区中央）

大正9年

・日野市豊田に東京府種畜場（仮事務所）設立

大正13年

・東京府立農事試験場と東京府立種畜場を併設とし、現在地（立川富士見町）に移転

昭和63年

・東京都林業試験場が農業試験場から独立
・千代田区神田に東京都立食品技術センター設立

平成3年3月

・（財）東京都農林水産業後継者育成財団と（社）東京都野菜価格安定資金協会とを発展的に解消し、本財団を設立

平成3年6月

・農地保有合理化法人に指定される（平成26年3月まで）

平成6年4月

・東京都有機農業堆肥センター事業を開始

平成8年4月

・東京都青年農業者等育成センターに指定される

平成10年4月

・（財）東京都森林整備公社と統合
・東京都林業労働力確保支援センター、都道府県緑化推進委員会に指定される

平成14年4月

・栽培漁業センター事業が、島しょ振興公社から移管
・都行造林管理事業を都から受託

平成15年4月

・東京都肉用子牛価格安定基金協会に指定される

平成16年4月

・奥多摩さかな養殖センター事業を都から受託

平成17年4月

・農業試験場、畜産試験場、林業試験場を統合し、東京都農林総合研究センターを設置して都から試験研究事業を受託

平成18年4月

・東京都立食品技術センター事業を指定管理者として受託

平成22年4月

・公益財団法人へ移行

平成25年4月

・チャレンジ農業支援センター開設

平成26年6月

・多摩産材情報センター開設

平成26年11月

・東京都農地中間管理機構に指定される（平成30年4月1日まで）

平成28年4月

・地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課を新設

事業所一覧

立川庁舎 〒190-0013立川市富士見町3-8-1

アクセス/JR青梅線西立川駅下車 徒歩7分または、JR中央線立川駅南口より西武バス立川駅北口行き10分「農業試験場前」下車

管理課	042-528-0505
農林総合研究センター	042-528-5216
農業振興課	042-528-1357
チャレンジ農業支援センター	042-524-3191
地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課	042-528-0510
森の事業課	042-528-0641
緑化推進室	042-528-0644



東京都青梅合同庁舎

〒198-0036 青梅市河辺町6-4-1

アクセス/JR青梅線河辺駅下車 徒歩15分

花粉対策室	0428-20-8134
花粉の少ない森づくり運動	0428-20-8153
多摩産材情報センター	0428-20-1181



栽培漁業センター

〒100-0101 大島町元町字和泉99-5

04992-2-3461

奥多摩さかな養殖センター

入川飼育池 〒198-0105 奥多摩町小丹波720

アクセス/JR青梅線古里駅下車 徒歩25分

0428-85-2028

海沢飼育池 〒198-0213 奥多摩町海沢53

アクセス/JR青梅線白丸駅下車 徒歩25分

0428-83-2149

青梅庁舎

〒198-0024青梅市新町6-7-1

アクセス/JR青梅線小作駅東口より西東京バス三ツ原循環西廻りで10分「平松北」下車徒歩3分または、駅前タクシー利用約5分

農林総合研究センター畜産技術科	0428-31-2171
青梅畜産センター	0428-31-2171
有機農業堆肥センター	0428-33-3997



農林総合研究センター江戸川分場

〒133-0073 江戸川区鹿骨1-15-22

アクセス/JR総武線新小岩駅南口より京成バス(3番)で15分「農業試験場」下車

03-3679-1458

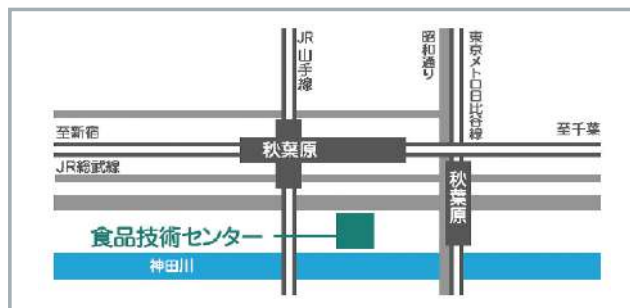


農林総合研究センター 食品技術センター

〒101-0025 千代田区神田佐久間町1-9

アクセス/JR・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレス 秋葉原駅下車 徒歩3分

03-5256-9251



育てます豊かな食とみどりの東京

公益財団法人 東京都農林水産振興財団
Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

財団HP : <http://www.tokyo-aff.or.jp>

財団Twitter : @tokyo_tdfaff

